

## 講師 開出牧（かいで・まき）氏 デイリースポーツ・デジタル映像担当記者



松江市出身。大社高校 37 期（体育科、野球部）。1983 年のセンバツ大会でベスト 8 入りしたチームのメンバーで、背番号 15 の控え投手としてベンチ入りした。

中京大学商学部卒業後、1992 年にデイリースポーツに入社。日本ハムや中日などのプロ野球担当記者を経て 1999 年からは写真部記者として野球をはじめ、大相撲、ゴルフ、競馬などスポーツを幅広く取材している。95 年には神戸市の本社が阪神・淡路大震災で壊滅的な被害を受け、不安の中で取材を続けた経験がある。

演題は「ファインダー越しに見た大社ベスト 8・令和の怪物」。高 3 の夏は島根大会の準決勝で敗退し、3 年間、夏の甲子園には手が届かなかった。それから 40 年後の 2023 年、実に 32 年ぶりに夏の甲子園出場を果たした後輩たちの姿をカメラで追い、ベスト 8 の偉業に胸を熱くしたという。

令和の怪物・佐々木朗希投手（現ドジャース）に初めて会ったのは、2019 年 12 月のロッテ入団発表会の席だった。9 歳の時に東日本大震災を経験し、父親を亡くしている。岩手県立大船渡高校 3 年の時に球速 163 キロを記録して注目を集め、夏の岩手大会決勝戦で「故障予防」を理由に監督が佐々木投手を試合に出さなかったことが賛否議論を呼んで社会問題にもなった。その令和の怪物を入団 1 年目から 5 シーズン取材し、完全試合達成を含め成長のプロセスを見てきた。

こうした取材で蓄積された豊富な写真を紹介しながら社高球児、佐々木投手の活躍と素顔、震災と野球、取材を続ける理由などを語ってもらう。

また、取材の傍ら音楽活動もしており、東日本大震災の被災地を支援するボランティアのライブに参加した。オリジナル曲に、甲子園を夢見て白球を追った高校時代と後の自身を歌にした「SECOND SKY」がある。講演の締めくくりにギターの弾き語りでも披露していただく。

